

2017年3月27日

中央労働災害防止協会

DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン(株) 共同発表

安全衛生水準を定量化 OSHレベル評価サービス「J-First」 川崎重工業(株)西神戸工場で第1号評価

中央労働災害防止協会（中災防：理事長 八牧 暢行）と DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社（DNV-GL：ゼネラルマネージャ 前田 直樹）は、事業場の労働安全衛生水準を評価する「OSH レベル評価サービス」（愛称：J-First、別添）において、第1号となる評価を川崎重工業株式会社 西神戸工場に対し実施し、このほど同工場に報告書を提出しました。これを機に、同サービスを本格展開します。

J-First は中災防と DNV-GL が共同開発したもので、「リスクの管理」「健康づくり」「安全衛生諸活動」など安全衛生の重要項目である6領域 18分野について、現時点で考えられるベストプラクティスと対象組織の状況を比較することで安全衛生水準を評価し、レベルとして定量化するサービスです。また、併せて組織の強み・弱みなどを提示します。

一般的に、労働安全衛生マネジメントシステムの認証審査では、PDCA（PLAN（計画） - DO（実施） - CHECK（評価） - ACT（改善））サイクルの仕組みがあり、それが適切に実施・運用されているかを中心にチェックしますが、マネジメントシステムの認証を受けた事業場からは「実際に自分たちがどの水準にいるのかを知りたい」という要望が増えてきており、それに応えるツールとして、J-First を開発しました。

今回、評価事業場第1号となった川崎重工業の担当者からは、「Good Point と Weak Point が示され、できている部分とできていない部分を明確に理解できた」「資材や物流など他の部署にも踏み込むという驚きがあった」「結果報告書で、低い評価項目には指導用参考例が掲載され、非常に有益」などの感想を受けました。

中災防と DNV-GL は今後、J-First を安全衛生分野におけるパフォーマンス(レベル)評価の主力ツールとして推進することとしています。また、J-First は、原則、製造業を対象にしているため、企業の求めに応じて 18 分野から評価分野を選択できるようにし、製造業以外の業種でも活用しやすいようにしたり、現場ヒアリングに重点を置いて評価するといったアレンジができるようにしたりするなど、カスタマイズのメニューも整備する予定です。

参考：本サービスを利用された川崎重工業の担当者の感想を掲載しています。下記URLをご参照ください。

<http://www.jisha.or.jp/jisha-ms/evaluation/case01.html>

この資料は、厚生労働記者会、厚生労働省労政記者クラブ、経済産業記者会、経済産業省ペンクラブ、鉄鋼研究会に配布しています。

【担当者】

中央労働災害防止協会（中災防）

マネジメントシステム審査センター 所長 白崎 彰久
DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社（DNV-GL）
リスクマネジメントグループ マネージャ 永木 規善

【照会先】

中災防 総務部広報課長 高橋まゆみ

（電話）03-3452-6542 （FAX）03-3453-8034

E-mail：koho@jisha.or.jp

DNV-GL 広報担当 小澤康一郎

（電話）078-291-1321 （FAX）078-291-1329

E-mail：koichiro.ozawa@dnvgl.com

JISHA 中災防

中災防は、昭和39年に労働災害防止団体系に基づき設立された団体で、事業主の自主的な労働災害防止活動を支援するため、企業の人材の育成、安全衛生の専門技術の提供および最新安全衛生情報の提供など、安全衛生に関する総合的な事業を行っています。

会 長：榊原 定征（さかきばら・さだゆき：日本経済団体連合会会長）

理事長：八牧 暢行（やまき・のぶゆき）



DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社は、ノルウェー・オスロに本部を置く自主独立財団の日本法人であり、労働安全衛生に関するレーティングサービス「ISRS」等の各種リスクマネジメントサービスをグローバルに提供しています。

ゼネラルマネージャ：前田 直樹（まえだ・なおき）

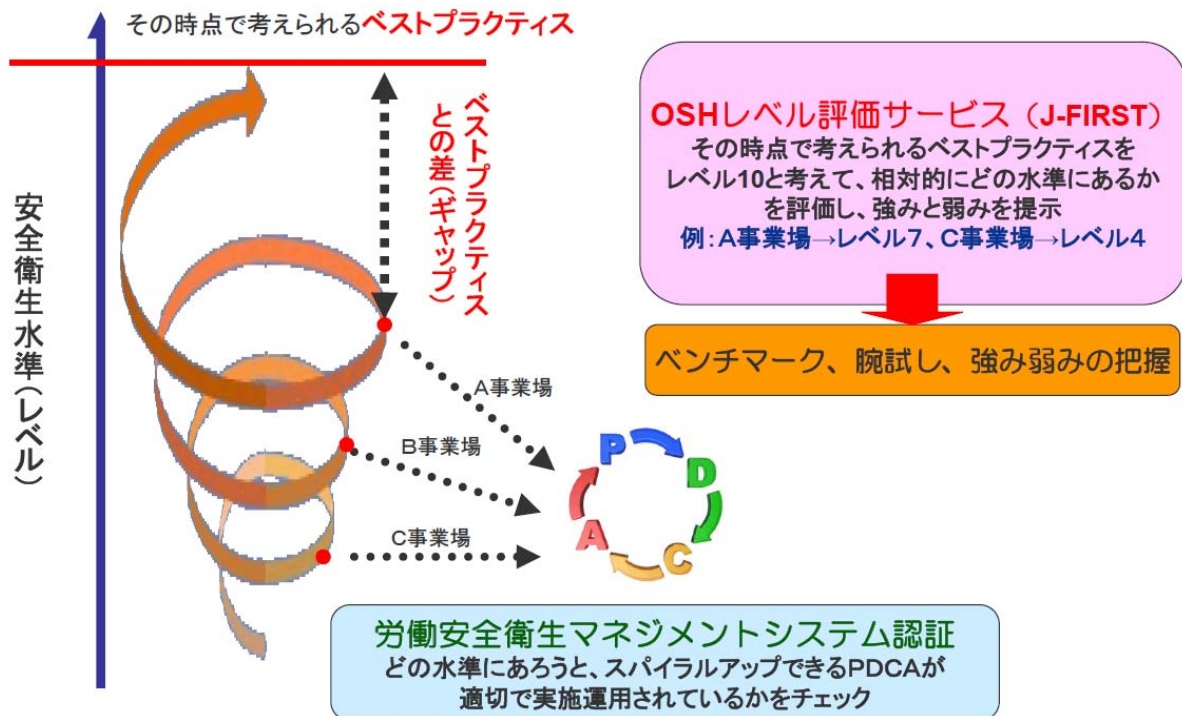
OSH レベル評価サービス「J-First」とは...

中央労働災害防止協会と DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社が、長年にわたって蓄積してきたベストプラクティスを OSH レベル評価基準として体系化し、安全衛生水準を定量的に示す評価サービス。

評価基準に基づき、6領域 18 分野ごとに評価し、全体のレベル（レベル1～10）や領域別の得点率を示すとともに、組織の安全衛生上の強みと弱みを提供します。また、主な弱みについて、参考となる好事例を提示します。

J-First (Japan For Industrial Safety-culture development)

OSH レベル評価の意義



評価分野と領域

領域	大項目（分野）
基盤と効果	1 労働安全衛生法等の遵守
	2 体制の確立
	3 労働者の参画
	4 明文化、記録
	5 地域とのつながり
	6 評価と効果
安全衛生管理の方向性	7 安全衛生方針の表明
	8 安全衛生目標・計画の作成
	9 安全衛生計画の実施等

領域	大項目（分野）
自律人間、考える職場	10 安全衛生諸活動
	11 作業手順書
	12 安全衛生教育
トータルヘルスの充実	13 健康づくり等
	14 リスクの管理
リスクマネジメント	15 労働災害発生原因の調査等
	16 緊急事態への対応等
構内一体運用の強化	17 構内物流・交通安全
	18 関係請負人（保全）

評価結果（報告書）の例

(3) Good Point

① ライン安全衛生推進員の配置
各課に推進員を配置し、安全衛生のライン管理の要として、課長を補佐し、職場からの意見の吸い上げ、安全衛生管理・活動の促進を図っていること。（I-2 体制の確立）

(4) Weak Point

① 法令を順守する仕組み
貴所に該当する労働安全衛生関係法令を反映する、貴所としての仕組みがありません。また、新規設備導入時等に安全衛生関係法令の入手先の確保、衛生法等の遵守）

② 通勤災害
毎年の交通
フォローなど
期間で交代で
活動）

③ 運転条件
運転条件を
転指示書の作
リスク分析手
たは問題があ
れていること

② 安全衛生目
貴所および
する目標（回
標により到達
点）

③ KY活動の
貴所では朝
ポイントであ
各ラインに指
に限定されて
の安全のポイ
ント

2 領域別事項 ■■■■■■

I. 基盤と効果

分野：1 労働安全衛生法等の遵守、 2 体制の確立、 3 労働者の参画
4 明文化、記録、 5 地域とのつながり、 6 評価と効果

貴所のOSHLレベル 5 ★★★

OSHLレベル	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目指すべきレベルの目安	★	★	★	★★	★★	★★★	★★★★	★★★★	★★★★	★★★★	★★★★

※目指すべきレベルの目安について： ★★★：当該業種において充分高いレベル
★★★★：当該業種においてあと一歩向上が期待されるレベル
★★★★★：当該業種において更に改善が期待されるレベル

(2) 領域別の評価(レーダーチャート)

貴所の領域別の得点率は、次のとおりです。なお、総合評価では高水準の取組みを深掘りして確認しているため、一般的に、基盤評価時よりレーダーチャートの面積が小さくなる傾向にあります。

(1) 基準とのギャップ

① 貴所として、
に応じて反映

② 新規設備導入
ん。（I-1

対象業種、評価日数・費用

- ・対象業種： 原則、製造業を対象（他業種向けにカスタマイズ可）
- ・評価日数・費用： 通常の評価スケジュールの場合 4.5 日間
2,527,200 円（消費税込み、交通費および宿泊費は別途）
（賛助会員割引あり）

下記 URL より、お客様用の手引き「OSHL レベル評価サービス（愛称：J-First）手引き」をダウンロードできます。

<http://www.jisha.or.jp/jisha-ms/evaluation/pdf/evaluationguide.pdf>